



スケールの政治

第3部 コンテキスト／スケール／言説の政治
地理学概論 I 第9週



お詫びとお知らせ

- WebClassの設定が、講義のPDFファイル（添付資料）をPCなどで参照できない形になっていました。設定のミスに気が付かず、ご迷惑をおかけして大変申し訳ありませんでした。これまでの講義について録音ファイルと共に参照できるようにしておきましたので、7月末までにご利用ください。
- 次回以降は通常期間（1週間）になりますので、期間中に視聴・ダウンロードをお願いします。
- ご指摘くださった方、ありがとうございました。他にもシステム上の不備などがあればいつでもお知らせください。



課題

教科書第9章を読んで、以下の問いに答えて下さい。

- ① 特定の地域で発生している現象を何でもよいので一つ取り上げて下さい（例えば商店街の衰退、観光地化、犯罪の増加など）。
- ② その現象を発生させている要因は、その地域の中でのみ認められるかどうかを考え、認められないのであればどの範囲まで（国内、国外？）関わるのか考えて下さい。
- ③ その現象が複数の空間的なスケールに関わって発生しているとすれば、その解決や維持のためにどのスケールに関わるべきか、考えて下さい（関わっていない場合は①にもどって下さい）。



課題

教科書第9章を読んで、以下の問いに答えて下さい。

- ① 特定の地域で発生している現象を何でもよいので一つ取り上げて下さい（例えば商店街の衰退、観光地化、犯罪の増加など）。
- ② その現象を発生させている要因は、その地域の中でのみ認められるかどうかを考え、認められないのであればどの範囲まで（国内、国外？）関わるのか考えて下さい。
- ③ その現象が**複数の空間的なスケール**に関わって発生しているとすれば、その解決や維持のためにどのスケールに関わるべきか、考えて下さい（関わっていない場合は①にもどって下さい）。



スケールの政治

- スケールって何だろう
- それが政治とどのようにかかわるのか
- 政治を空間的広がりの中で考える
 - コンテキストにもいろいろなレベル・層・広がりがある



色々なスケールのお話

- 地理学における 3 つの「スケール」

① 地図学的スケール = 縮尺 (地図上の解像度)

② 方法論的スケール = 研究者の視角 (ミクロに見るか、マクロに見るか)

③ 地理的スケール = 空間的広がり とそうした広がりをつくりだす現実の、社会的なプロセス (変化の過程)



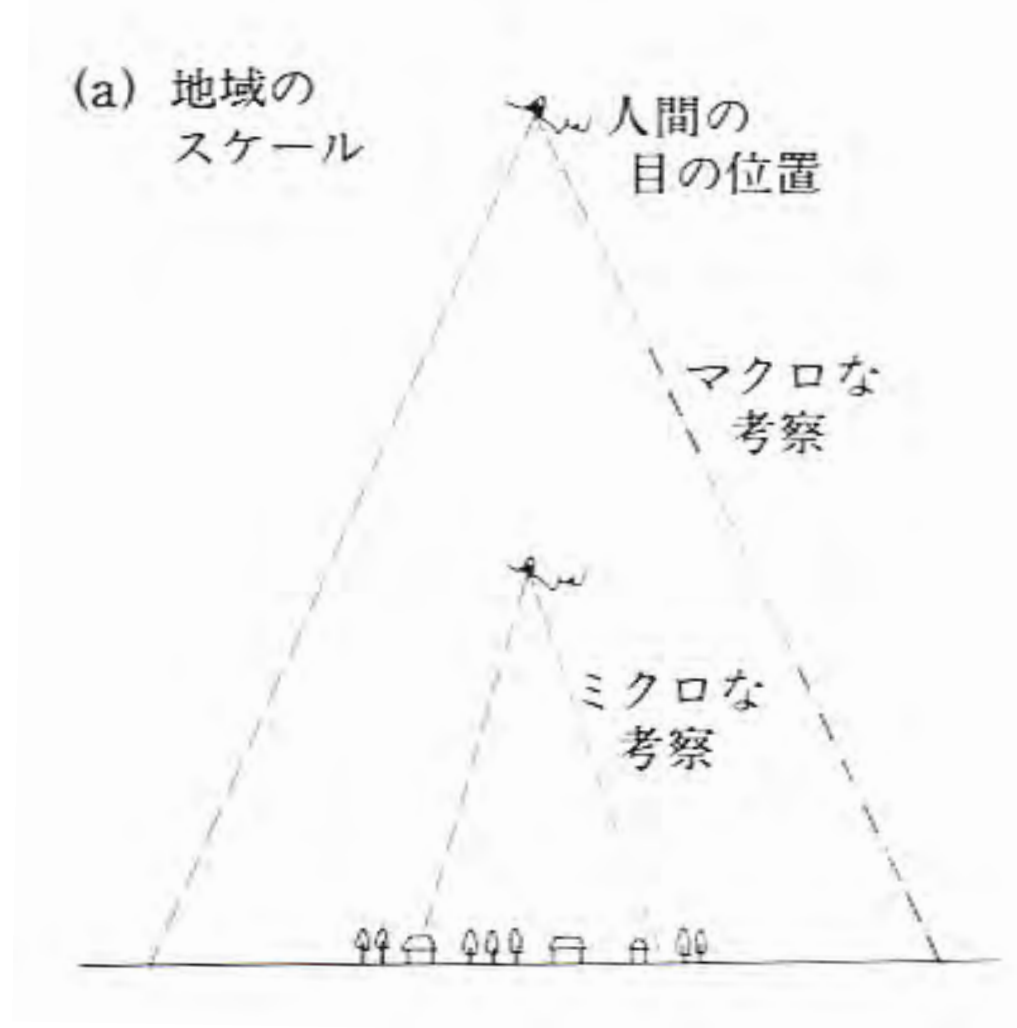
地図学的スケール＝地図における縮尺



小 ← 縮尺 → 大



方法論的スケール＝研究者の視角



空間的広がりとしてのスケール（1）

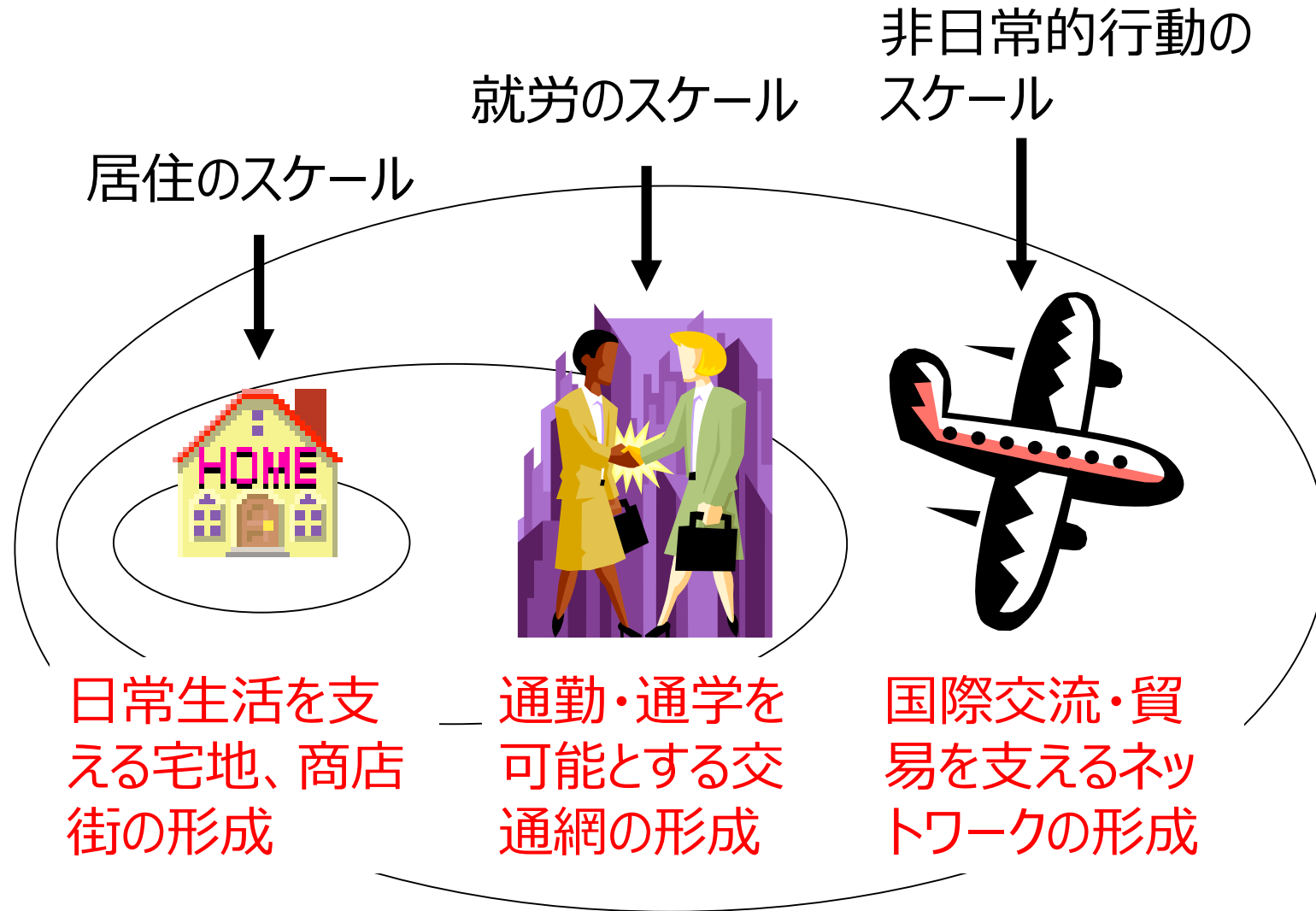
- 地理的スケール
 - 特定の社会的プロセスを通して形成される空間の単位
- 事例
 - 近代化や資本主義の発展は社会生活の空間的単位（生活圏）を小規模なコミュニティから都市、都市圏、さらに国外へと拡大する。



空間的広がりとしてのスケール（2）

- 生活圏の拡大を可能にするもの
 - 社会的自由・許容度の増大
 - 可処分所得の増加
 - 交通・通信手段の発達
- 私の生活
 - 貝塚市に**居住**、大阪市を中心に**仕事**をしながら、府外・国外にもしばしば**出張**。





地理的スケールの重層性（1）

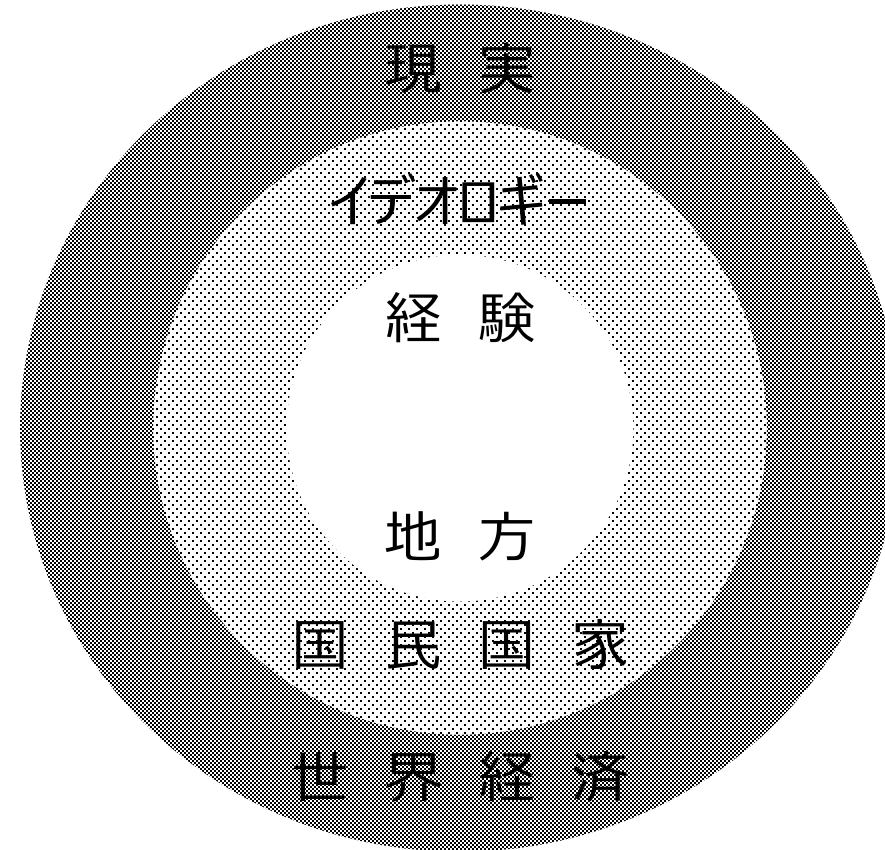
- 社会の特定の活動（居住、就労、交易など）が維持される空間的広がりが、**階層的・重層的に構成されている。**



社会はそういう風に**地理的に分化**している。



テイラーによる3つの地理的スケール



地理的スケールの重層性（2）

- グローバル・スケール
 - 資本主義経済が世界大で機能する「現実」のスケール
→物事はここから始まる（テイラー）
- ローカル・スケール
 - 私たちが日常生活として「経験」する局地的なスケール
→「経験」は「現実」とは異なる（テイラー）



地理的スケールの重層性（3）

- ナショナル・スケール

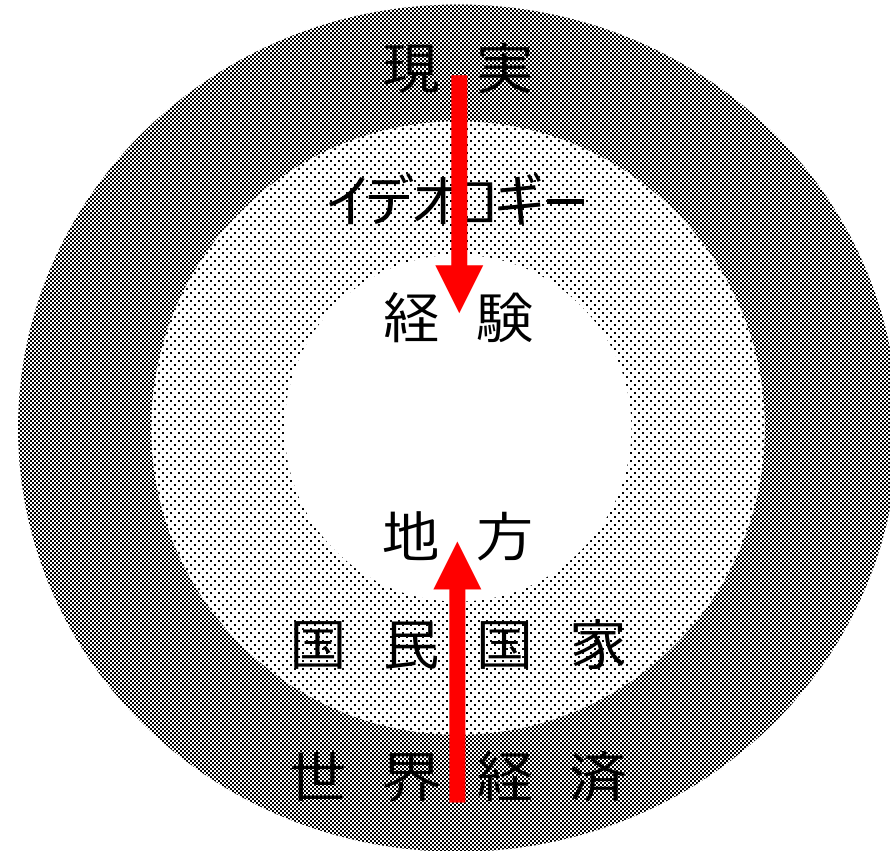
二つのスケールの間を媒介する国家の「イデオロギー」のスケール



イデオロギー＝社会がどのように機能し、そしてすべきかに関する世界観。しばしば「現実」をあいまいにするために用いられる。



テイラーによる3つの地理的スケール



地理的スケールの重層性（4）

- 国家の**イデオロギー**とは
 - 国家は社会的まとまりをもつ国民から構成される（**国民国家**）という考え
 - 単一民族国家幻想（日本？）
 - 国語の絶対化（訛りへの劣等感）
 - 人種主義（〇〇人至上主義）
 - 「国民経済」という想定
- ↓
- 世界経済の「**現実**」が国家の「**イデオロギー**」によって歪められ、ローカルな「**経験**」を構成している事例とは？



課題

教科書第9章を読んで、以下の問いに答えて下さい。

- ① 特定の地域で発生している現象を何でもよいので一つ取り上げて下さい（例えば商店街の衰退、観光地化、犯罪の増加など）。
- ② その現象を発生させている要因は、その地域の中でのみ認められるかどうかを考え、認められないのであればどの範囲まで（国内、国外？）関わるのか考えて下さい。
- ③ その現象が複数の空間的なスケールに関わって発生しているとすれば、その解決や維持のためにどのスケールに関わるべきか、考えて下さい（関わっていない場合は①にもどって下さい）。



ヨーロッパにおける極右勢力の台頭



ネオナチ、ドイツ



移民によるドイツ人男性殺害に抗議するネオナチのグループ (ドイツ、ケムニッツ 2018年8月27日)



<https://www.msn.com/ja-jp/news/world/>



フランス系極右団体による移民排斥運動 (ベルギー、ブリュッセル 2016年)



<https://jp.sputniknews.com/europe/201604021886514/>



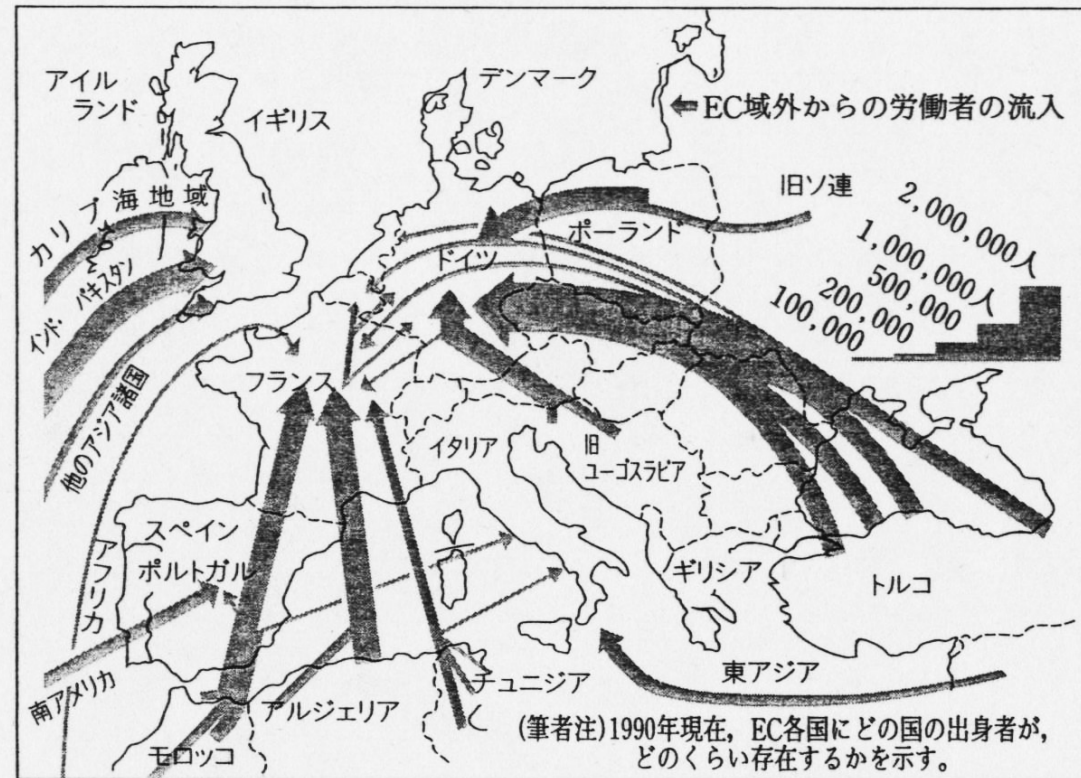
フランスでの反極右デモ（2002年5月）



極右勢力台頭のメカニズム (1)

① ヨーロッパ（EC諸国） の寛容な移民政策 （1980年代）

図8-4 EC域外からの労働移動



出所:G.Simon,Vers Europe Communautaire de moins en moins mobile?,
Revue Européenne des Migrations Internationales,vol.7,no.2,1991,p.54.



極右勢力台頭のメカニズム（2）

② 移民の定住化と文化 （イスラム）復興運動

→ 既存のヨーロッパ文化
と摩擦



ベルリン



極右勢力台頭のメカニズム (3)

③ 90年代の高失業率

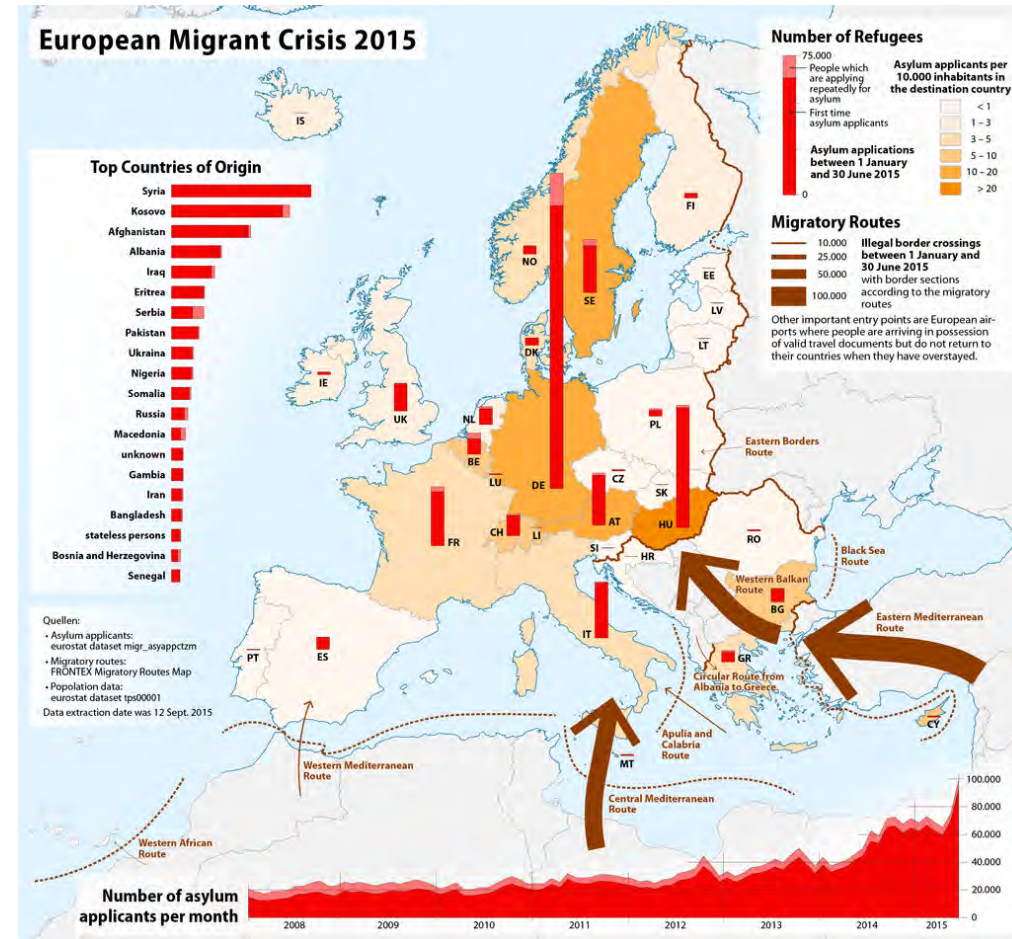
→ヨーロッパ域外移民の抑制、
雇用不安

④ 1993年にEU（ヨーロッパ 連合）が形成

→国家主権の一部がEUに移
譲

⑤ 2015年欧州難民危機

→中東・アフリカからの難民申
請者の急増



https://en.wikipedia.org/wiki/European_migrant_crisis



極右勢力台頭のメカニズム（4）

- 結果（外国人排斥、ナショナリズム）

- 「移民が就業機会を奪う」

- 「自国民優先に雇用政策をとるべき」

- 「移民が国民文化を破壊している」

- 「国家を弱体化するEUに反対」（Brexitの一因）

- 最近では移民・難民とテロの危険性が結び付けられる

→これらのスローガンを唱える集団・政党に支持増加（ドイツ、イギリス、オーストリア、フランス、オランダ、ロシアなど）

↑

低賃金労働を中心に労働市場に参入していく移民への警戒感と「敵視」（不況下ではパイの奪い合い）



日本でも？

- 石原元都知事「**三国人**」発言
(2000年)
新宿区歌舞伎町での外国人犯罪増加
← **東京の世界都市化**
- **入湯拒否**問題 (2001年訴訟
に)
小樽市銭湯などでのロシア人の「素行不良」
← **ロシアとの (ビザなし) 交流**
- **SARS**をめぐると対応 (2003年)
中国系外国人の病原菌媒介
← **東アジアとの人的交流の深化**
- 東京・大阪での**ヘイトスピーチ**との類似性と差異



<http://tanakaryusaku.jp/2013/02/0006715>



問題を理解する枠組み

- 南北の経済格差にともなう労働力流動
 - グローバルな世界経済の「現実」
- 移民の定着と住民との関係
 - ローカルな「経験」
- 極右勢力による移民の社会的弊害の捉え
 - ナショナルな「イデオロギー」（世界観）
- 「経済」を「政治」に、「移民」を「難民」に変えても成り立つ



移民（難民）の地域社会への流入に対する住民の反応を構成→場所の政治へ



課題

教科書第9章を読んで、以下の問いに答えて下さい。

- ① 特定の地域で発生している現象を何でもよいので一つ取り上げて下さい（例えば商店街の衰退、観光地化、犯罪の増加など）。
- ② その現象を発生させている要因は、その地域の中でのみ認められるかどうかを考え、認められないのであればどの範囲まで（国内、国外？）関わるのか考えて下さい。
- ③ その現象が複数の空間的なスケールに関わって発生しているとすれば、その解決や維持のためにどのスケールに関わるべきか、考えて下さい（関わっていない場合は①にもどって下さい）。



スケールの政治（1）

- 政治に関わる**主体**→活動のスケール
 - 政治主体間の対立
 - 地理的スケールは**封じ込め**にも**エンパワメント**にもなる
- 「スケールの政治」の例
 - 1980年代イギリスサッチャー政権と労働党主導の大都市圏政府
 - 1960年代後半から70年代初めの日本での「**地方の時代**」（**革新自治体**の全国的増加）



スケールの政治（2）

- スケールのジャンプ
 - 政治権力を行使する中心的手段
 - 一つの地理的スケールで確立された政治的要求や権力が別のスケールに拡張されること（≡政争の舞台を移す）
 - 労働党大都市圏政府、日本の革新自治体の増加→中央政府に影響（ローカル→ナショナル）
 - 中央政党や保守政党は巻き返し、ローカルな政治基盤を奪還（ナショナル→ローカル）
 - 異なった「スケールの政治」は複雑に並存



「大阪維新の会」の活動（1）

- 橋下徹大阪府知事（当時）らが中心となり、2010年4月に結成した政治団体（地域政党）



「大阪維新の会」の活動（2）

- 政策 = 大阪府域の再編、「大阪都」構想
 - 大阪府を広域自治体として再編・強化し、経済発展を図る
 - 大阪市と堺市（政令指定都市）を廃止し、府との二重行政を解消、複数の特別自治区（現「特別区」）からなる大阪都とし、特別自治区が住民自治にもとづく公共サービスを提供する
- 2010年9月現在で大阪府会議員に29名、大阪市会議員に12名、堺市会議員に7名



「大阪維新の会」の活動（3）

- 府から市町村（特に大阪市）へのジャンプ
- 自民党地方議員を中心に関連自治体議会に議席を増やす
- 橋下知事自ら大阪市長選の出馬を匂わせる
 - 平松大阪市長（民主・労組系支持）と激しく対立
 - 大阪府大を理系中心に再編縮小し、大阪市大との統合を主張
- 府域再編（政令市解体）ありきの制度論が先行←市は関西州（大都市圏州）の構想で対抗



統一地方選挙の結果（1）

- 大阪府議会議員選挙（2011年4月10日）
 - 109議席中57議席獲得（52.3%、落選3）
 - 62選挙区のうち56区で当選（52区でトップ）
 - 敗戦区 = 都島区、西淀川区、旭区
 - 二位当選区 = 東淀川区、生野区、西成区、西区
 - 大阪市以外の府下市町村では候補を立てなかった寝屋川市と藤井寺市以外ですべて一位当選（無投票当選2を含む）



統一地方選挙の結果（2）

- 大阪市議会議員選挙（2011年4月10日）
 - 86議席中33議席獲得（38.4%、落選11）
 - 24選挙区のうち西淀川区以外の23区で当選者
 - 一位当選区 = 北区、福島区、此花区、西区、港区、天王寺区、浪速区の7区にとどまる
 - 公明党一位当選区（14区） = 大正区、西淀川区、淀川区、東淀川区、東成区、生野区、旭区、城東区、鶴見区、住之江区、住吉区、東住吉区、平野区、西成区
 - 公明党は市部で府会議員候補をあまり立てず



統一地方選挙の結果（3）

- 堺市議会議員選挙（2011年4月10日）
 - 52議席中13議席獲得（25%、落選2） = 第一党に
 - 7選挙区（全て複数人区）のうち全てで当選（4区でトップ、3区で1・2位独占）
 - トップをとれなかった堺区、中区、東区では公明党候補がトップ
 - 公明党は改選前の第一党、改選後1議席減らし、12議席獲得し第二党に
- 2015年の統一地方選挙では大阪府・市、堺市各議会で維新は過半数に達せず
 - 2019年には府議会（49/88）、大阪市議会（40/83）、堺市議会（18/48）

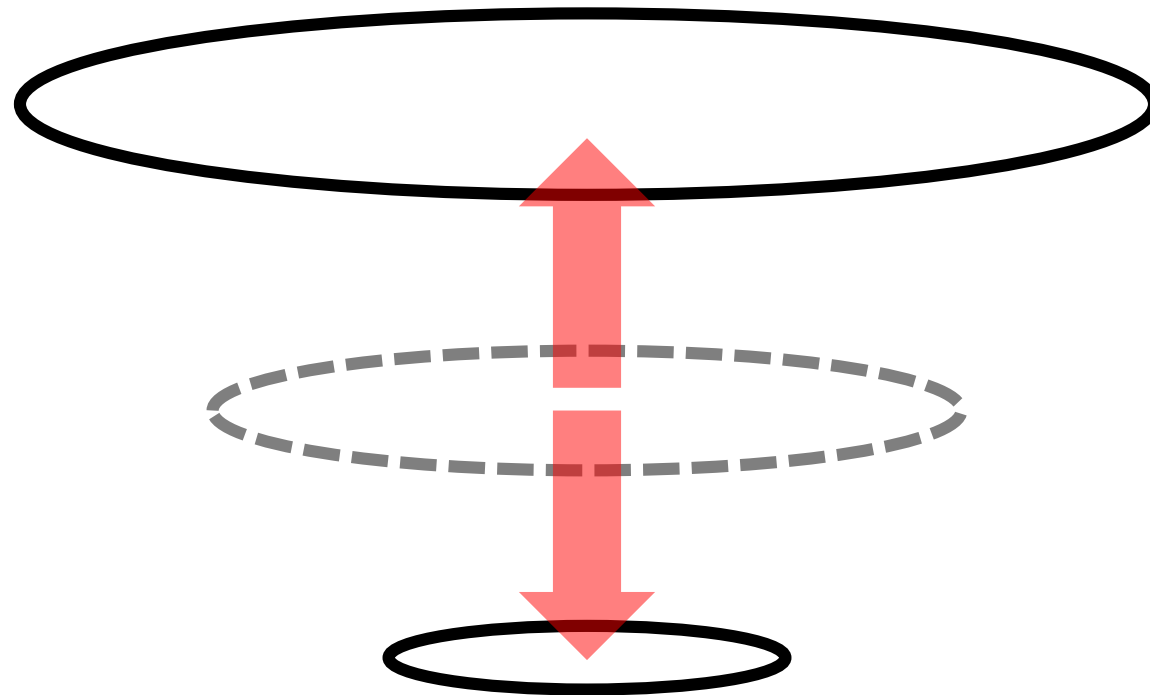


「大阪秋の陣」(1)

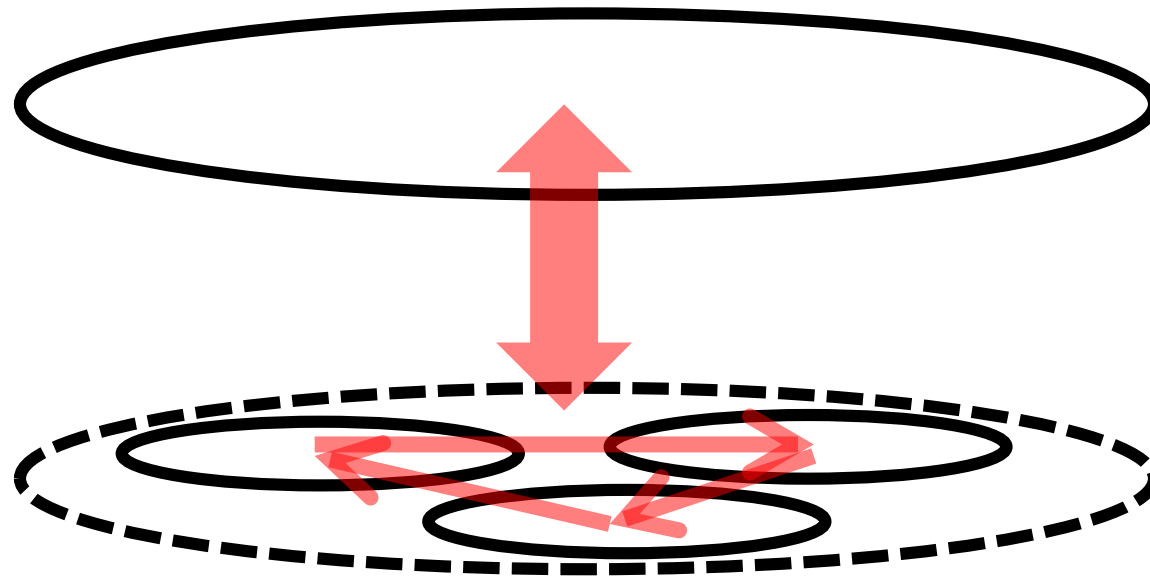
- 橋下知事は11月に大阪知事・市長のダブル選挙を実施、市長選出馬・当選
 - 争点は大阪府市の「二重行政」の弊害、大阪市政の腐敗←背後に既成政党への不信
- グローバル化の中で大阪市は解体（リスケーリング＝スケール再編）されるべきなのか？
 - 橋下：大阪市解体による垂直統合
 - 平松：政令市（京阪神）の水平連携



垂直的（統合）リスケーリング



水平的（連携）リスケーリング



「大阪秋の陣」(2)

- 結果
- ミクロなコンテクストに左右される大阪市内の選挙区選挙（というスケール）でも平松候補を圧倒
← 公明党は自主投票に（4割は維新へ）
- 知事選も倉田候補の地盤（一種のコンテクスト＝池田市）以外で松井候補が勝利
- 橋下・松井の維新派の支持のスケールは府域大
→ メディア戦略が空間の摩擦を超えたケース



マルチ・スケールのアプローチ

- 地理的スケール

- 現実の政治的プロセス、イデオロギーや政治意識、そして政治的実践の交錯する場
- ローカルに発生する問題であっても、それ以外のスケールとどう関わっているか常に考える
- 研究の視野を柔軟に拡張・推移させる = 政治の舞台は重層的に変動している（フラットではない）
- 世界というコンテクストの中にローカルな政治を位置づけて考える

